

道は2018年9月の胆振東部地震による大規模停電（ブラックアウト）を受けて、酪農家向けの危機管理対策マニュアルをまとめた。生産活動に大きな影響を及ぼした停電、断水への備えに絞って、さまざまな取り組み例を示している。

大規模停電では搾乳機械や冷蔵機器が動かず、生乳の損失に加え、乳房炎を患った牛も多く発生した。道は従来からある各地域のマニュアルを参考に、胆振東部地震の被害状況も踏まえて、全道の酪農家に共通する対策をまとめた。

停電への備えでは、各機器の必要電力量を把握した上で、自家発電機を確保することを挙げた。バルククーラーなどは起動時に通常より多くの電力を使うため、メーカーや販売業者と事前に相談して、適正な能力の発電機を用意することを勧めた。地域内で共同利用する場合は、使用順などを整理した計画づくりも必要と指摘した。

加えて、自家発電機をつなぐ配電盤や電線の準備、接続がうまくいかない場合に備えて最寄りの電気工事業者を複数把握しておくべきとしている。

断水に関しては、1日当たりの必要水量を事前に把握することを奨励。計算方法も紹介し、経産牛60頭規模で1日・約6500リットルが必要とした。

過去に給水車の水をためておくことができなかった事例があり、受け入れ方法も示している。タンクを確保し

ておくこと、コンテナなどにビニールシートを張り、簡易貯水槽にすることも紹介している。給水ポンプを用意し、河川の水や地下水をくみ上げる準備も勧めている。

マニュアルは道のホームページで公開しているほか、印刷したものをJAを通じて酪農家に配布する。

事象	影響	必要な対策・対応
停電	・搾乳できない ・バルククーラーの冷却ができない ・給水用ポンプが使用できない	・搾乳する、しないの判断 ・自家発電機の手配 ・飼料や水の状況に応じた飼養管理の変更
断水	・家畜が水を飲めない ・搾乳機器を洗浄できない	・水の安全性確認 ・井戸水の利用、受水槽確保、給水対応
交通の遮断	・出荷できない ・飼料、自家発電機が配送できない ・収穫作業などほ場管理ができない	・私道、取り付け道路の修復 ・う回路の確保
通信の遮断	・電話連絡ができない	・携帯電話、メール、SNSの有効活用と電源確保
施設の損壊	・倒壊の危険・給餌できない ・サイレージの品質低下	・遊休施設の使用 ・サイレージの詰め替え
乳牛の二次的被害	・乳房炎、ストレス、繁殖不良、周産期疾病の発生	・観察による早期発見 ・獣医師による治療

◆災害時の農場への影響と対策例

生乳生産1000トン突破 戸数減も規模拡大進む

2019年5月9日

十勝農協連（山本勝博会長）がまとめた2018年の十勝畜産統計によると、酪農家1戸当たりの年間生乳生産量が1038トンとなり、初めて1000トンを突破した。全国と同様に十勝でも農家戸数が減少しているが、飼育頭数は増加しており、1戸当たりの経営規模が拡大していることを裏付けた。飼養管理技術の向上や乳牛自体の改良も進み、1頭当たりの乳量が伸びていることも要因となった。

昨年末時点の状況を各JAから聞き取ってまとめた。1戸当たりの年間生乳生産量は1988年に214トンだったが、2002年に500トンを突破。18年までの30年でおおよそ5倍に増大した。

18年に関しては天候不順で牧草の品質が悪化、胆振東部地震に伴う大規模停電（ブラックアウト）にも見舞われたが、前年の969トンから7%も伸ばし、他地区と比べても高い生産量を示した。

乳牛の飼育戸数は30年前の3279戸から6割以上減り、18年は1282戸（生乳を生産していない農家なども含む）。ただ、

